

# KKR+Aのテーマのもとに



## 環境基本理念

近年、地球環境の悪化が急速に進んでいます。その地球にくらしている私たち人類が地球環境の維持と改善に努め、美しい自然を子孫に譲り渡すことは人類共通の使命であります。住江織物はこのことを認識し、従業員全員が環境保全に積極的に取り組むことによって、住みよい豊かな社会をつくります。

## 住江織物グループ環境対策宣言

1998年に発表した環境対策宣言を見直し、2009年に新たな7つの宣言として改訂し着実に推進しております。

### 宣言1 室内環境を改善し、快適な空間を実現します。

タバコ臭やペット臭、生活悪臭に加え、シックハウスの原因となるホルムアルデヒドなどを吸着・分解して消臭する「トリプルフレッシュ®加工」のカーペット、カーテン、壁紙、車両内装品や、アレルゲンの働きを抑制する「アレルブロック®加工」、お肌に優しい「スキンケア加工」などにより、安心・快適な空間を実現します。

### 宣言2 循環型社会に対応し、リサイクル材を積極的に採用します。

ペットボトルから製造されたポリエステル系の「スミロン®」、使用済みタイルカーペットを回収し、リサイクルする「タイルカーペトリサイクルシステム」、リサイクル性に優れた鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®」、ビールケースなどから再生されたPP樹脂の簡易二重床「SEライトN」などリサイクル材を積極的に活用して環境保全と資源の有効利用に取り組んでいます。

### 宣言3 CO2削減と環境負荷を低減させる製品を提供します。

地球温暖化防止に向けた低炭素社会実現の一端を担うため、原料、製造、輸送、使用、廃棄といった製品のライフサイクル全体にわたって、環境負荷を総合的かつ定量的に評価するライフサイクルアセスメント(LCA)手法に基づく「ローカーボン製品」を開発・提供いたします。

### 宣言4 安心・安全な素材を使用し、健康と環境に配慮します。

法的な規制はもちろん、シックハウスの原因となるVOCや廃棄時に問題となる重金属などを含まない安心・安全な製品提供とともに、ウール・麻・綿などの天然素材も積極的に活用します。また、火災時に有毒ガスの発生が少ないオレフィン系床材などで、人に優しい製品づくりに努めます。

### 宣言5 製造から製品に至るまで、省資源・省エネルギーに取り組めます。

製造時における材料、副資材、水、エネルギーのロス低減による資源の有効活用を図るとともに、省エネ設備の更新推進、品質向上、製品の軽量化、容器・梱包の簡素化、減量化を図り、輸送効率、使用効率、廃棄効率を追求し、省資源・省エネルギー化を推進いたします。

### 宣言6 最新情報に基づき、環境負荷物質の適正管理を推進します。

製品に使用する材料に対して、特定の化学物質の含有に関する制限が、内外ともに強化されております。この対応として、対象製品すべてにわたって確認し、サプライチェーンマネジメント(SCM)の考え方に基づいた使用材料の適正管理を図るとともに、最新の安全性に関する情報入手・把握に努めます。

### 宣言7 エコを意識した製品を提案・提供します。

製品の見た目や機能面での環境配慮だけでなく、製造の過程で用いる資源やエネルギーなどを最小化し、易リサイクル化、製品の長寿命化、廃棄処理の最適化を見据えた「エコデザイン思想」に基づく、製品およびシステムの提案・提供に努めます。

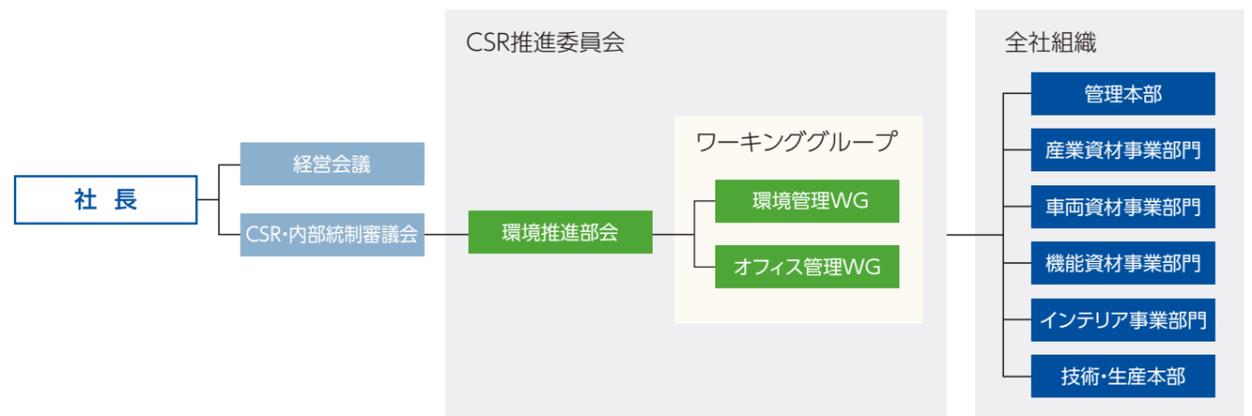
## 行動指針

### 環境保全を実施するにあたって

- 1 私たちは、企業活動全般にわたって環境を汚染することのないように配慮しつつ、積極的に省エネ・省資源・リサイクルを推進します。
- 2 私たちは、環境に配慮した技術と商品を開発することにより、生産から販売、廃棄に至るまで商品ライフサイクルを通して環境保全に努めます。
  - ① 省エネ、省資源技術の開発
  - ② リサイクル技術・リサイクルシステムの開発
  - ③ 環境負荷がより少なく、安全性がより高い原材料への置き換え技術および商品の開発
  - ④ 室内環境を改善し、健康および快適性に貢献する商品の開発
- 3 私たちは、地域社会とのコミュニケーションを通じて社会との共生をはかり、全従業員が小さなことでもできることから行動を起こします。
- 4 私たちは、環境保全推進のため社内体制の整備と、全従業員の環境意識の高揚に努めます。

## 環境推進体制

CSR推進委員会内に環境推進部会を置き、立案・決定された環境施策を全社組織で実行しております。



## 環境マネジメントシステムの導入状況

2000年度に生産事業所である奈良事業所がグループとして初めてISO14001認証を取得。その後順次導入し現在国内の5生産事業所においてISO14001の認証を、1事業所でエコ・アクション21の認証を取得しております。

	ISO14001:2015			エコ・アクション21:2009
	奈良事業所・滋賀事業所	帝人テクロス(株)	尾張整染(株)本社・石川工場	丹後テクスタイル(株)
審査登録機関	日本規格協会	日本品質保証機構	日本品質保証機構	持続性推進機構
登録番号	JSAE 235	JQA-EM1519	JQA-EM3114	0009522
登録	2000年5月	2001年4月	2003年3月	2013年7月
更新	第6回済(2018年5月)	第5回済(2016年4月)	第5回済(2017年7月)	第2回済(2017年7月)

## 環境との関わり

当社グループの事業と環境とは、製品の開発設計から資材調達・生産・販売・物流、そして使用・廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通して、また日頃の事業活動においても深い関わりをもっています。

当社グループでは、製品のライフサイクル、また事業活動全体が環境に与える影響を把握するよう努め、環境負荷低減に取り組んでおります。特に、使用済みタイルカーペットから再生された塩ビパウダーや、ペットボトルから再生された原綿やポリエステルペレットなどの再生材料を積極的に使用するなど、環境に優しい製品づくりを進めております。CSR活動においても環境配慮に重点を置き、“エコチャレンジ2018”の目標を掲げ、全グループで取り組んでおります。

## エコチャレンジ2018(第4次中期行動目標)

環境に関する第4次中期行動目標として、エコチャレンジ2018を設定しております。  
2015～2017年度の3か年を行動期間として取り組みを進めております。

### ■ 対象範囲



★ 国内生産事業所：再生資源利用、産業廃棄物発生量(再資源化率、埋立処分率)、PRTRの対象  
☆ 海外生産事業所：使用エネルギー、水使用量のみ対象

■ 期間：2015年度～2017年度(3年計画、データ期間2015年6月～2018年5月)

### ■ 行動目標と2017年度実績

No	取り組み項目	最終目標値	基準年度	2017年度目標値	2017年度実績	評価
1	地球温暖化防止	使用エネルギーの削減	2014年	-3%	-10.1%	○
		社有車の燃料使用量の削減	2014年	-3%	-27.4%	○
2	省資源	水使用量の削減	2014年	-3%	3.8%	△
		再生資源利用率の向上	2014年	3%	0.9%	△
3	廃棄物の3R	産業廃棄物発生量の削減	2014年	-3%	-4.9%	○
		再資源化率の向上	-	65%以上	67.9%	○
		埋立処分率の低減	-	10%以下	10.9%	△
4	環境汚染防止	大気汚染防止(NOx排出量削減)	2014年	-3%	-5.8%	○
		PRTR取り扱い量の削減	2014年	-3%	-14.5%	○
5	グリーン活動推進	事務用品のグリーン購入率向上	-	95%以上	87.6%	△
		コピー用紙使用量の削減	2014年	-3%	5.1%	△
6	製品のLCA評価促進	LCA評価 18アイテム	-	6アイテム	34アイテム	○
7	環境に配慮した技術の開発促進	3件	-	1件	1件	○
	環境に配慮した製品の開発促進	9件	-	3件	3件	○
8	事業活動における生物多様性の保全活動	-	-	-	-	-
9	海外生産事業所における環境負荷の集約と低減	全海外生産事業所のデータ集約	2014年	+2社	0社	×

■ 原単位：分母を連結売上高にして計算する。

■ 換算係数：CO<sub>2</sub>排出量は温対法に基づく排出係数で算出。NO<sub>x</sub>の換算係数はエコアクション21 2002年版で算出。海外生産事業所のCO<sub>2</sub>排出量は、GHGプロトコルの2007年の各国ごとの排出係数で算出。

2017年度実績を使用(インプット)と排出・発生(アウトプット)に分類して掲載しております。

チャレンジ3か年の取り組みで、地球温暖化防止・環境汚染防止など、大きな成果を上げることができました。

## INPUT

### 使用エネルギーの削減

地球温暖化防止

省エネ活動の成果を、使用エネルギーの熱量換算値\*で確認しております。行動期間を通して目標を達成いたしました。

\*熱量換算値：単位=GJ[ギガジュール]

#### ■ 使用エネルギー(熱量換算値)の推移 [海外含む]



### 水使用量の削減

省資源

冷却水の循環利用などに努めております。2017年度は自動車関連の生産増加が水使用量に影響を及ぼしました。

#### ■ 水使用量の推移 [海外含む]



### 再生資源利用率の向上

省資源

再生資源を原材料に積極的に投入、省資源化を進めております。主力工場にて再生資源率の低い製品の製造が増加し、利用率が伸び悩みました。

#### ■ 再生資源利用率の推移



## OUTPUT

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

参考データ

企業活動が地球温暖化に及ぼす影響をCO<sub>2</sub>排出量で確認しております。行動期間中、大きく削減いたしました。

#### ■ CO<sub>2</sub>排出量の推移 [海外含む]



### 産業廃棄物発生量の削減

廃棄物の3R

生産に投入される材料のロス削減や不適合品の撲滅、また資源の有効活用など、廃棄物発生量の抑制に今後も努めてまいります。

#### ■ 産業廃棄物発生量の推移



### 再資源化率の向上・埋立処分率の低減

廃棄物の3R

埋立処分率で一部未達となりましたが、長期的な改善傾向を維持するべく努めてまいります。

#### ■ 再資源化率・埋立処分率の推移



## INPUT

### PRTR取扱量の削減

環境汚染防止

難燃剤のDBDE(デカブプロモジフェニルエーテル)やフッ素系撥水剤のPFOA(ペルフルオロオクタン酸)などが各種規制により将来的に使用制限されるため、より安全な代替物質に置き換えつつあります。

#### PRTR取り扱い量の推移



## OUTPUT

### 大気汚染物質排出量の削減

環境汚染防止

大気汚染物質には、窒素酸化物(NOx)、硫酸酸化物(SOx)、粉じんなどがありますが、代表としてNOxを記載しております。NOxの排出量は、エコアクション21の2002年版の低減対策が行われていない施設の排出係数で算出しております。

#### Nox排出量の推移



## GREEN PURCHASING

当社グループでは、生産・製造以外を含めた全ての事業活動にわたり、環境に配慮した取り組みを進めております。

### 社有車の燃料使用量の削減

地球温暖化防止

エコドライブの推進、またエコカーへの積極的な転換を進めるなど、社有車の燃料使用量の削減に努めております。

エコチャレンジ2018の行動期間中を通して順調に推移し目標を達成いたしました。

#### 社有車の燃料使用量の推移

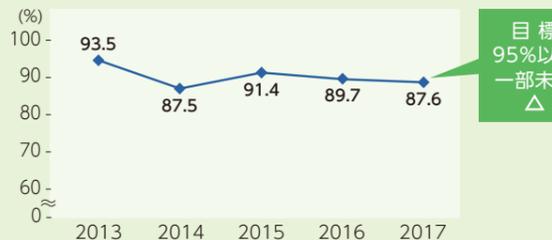


### 事務用品のグリーン購入率向上

グリーン活動の推進

資源採取から廃棄に至る、ライフサイクル全体にわたる環境負荷の低減を考慮した物品などの、積極的な購入に努めております。一部目標未達の事業所の取り組み強化など、今後の推進力を高めてまいります。

#### 事務用品のグリーン購入率の推移



### コピー用紙の使用量の削減

グリーン活動の推進

イントラネットの普及や裏紙の利用などにより、コピー用紙使用量の削減を推進しております。長期的な削減傾向を維持すべく今後も努めてまいります。

#### コピー用紙の使用量の推移



### 製品のLCA評価促進

#### 製品のLCA\*評価促進(目標6アイテム)

製品のLCA評価を自社内で行う体制を整え、2015～2017年度の3か年で18アイテムの評価を目標に掲げております。2017年度は単年度目標6アイテムのところ、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」について7マーク34アイテムの評価を行いました。

\*LCA: 製品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおける投入資源、環境負荷およびそれらによる地球や生態系への潜在的な環境影響を定量的に評価する手法、ライフサイクルアセスメントの略称。



34アイテム  
目標達成  
○

### 環境に配慮した技術の開発促進・環境に配慮した製品の開発促進

#### 環境に配慮した技術の開発促進(目標1件)

##### 1 トリプルフレッシュ®ケア

介護の現場で使用されるカーテン向けに、介護に関するにおいに優れた効果を示す消臭機能と、防炎性能を合わせた加工技術を開発。

1件  
目標達成  
○

#### 環境に配慮した製品の開発促進(目標3件)

##### 1 夏場に光を遮り、冬場には光を取り入れる

ボイルカーテン「スマートヴェール」

##### 2 摘果柿から抽出した柿ポリフェノールを

原材料に使用した「柿ダノミ」

##### 3 再生紙85%以上、環境に優しい

印刷技術の襖紙「ルノン 凜」

3件  
目標達成  
○

### 事業活動における生物多様性の保全活動

2011年度に生物多様性の保全活動について取り組み方針を策定し、2013年度から事業所毎に特色のある活動を実施しております。

#### 取り組み方針

##### 1 事業活動が生物多様性に及ぼす影響の低減

- ・生産事業所内および周辺での生物多様性のモニタリング調査を行う。
- ・植樹を行う場合は、外来種ではなく、地域に自生している在来種を使う。
- ・事業所周辺の清掃を定期的に行い、草刈りなどで環境を整備する。
- ・生物資源を原材料として使用する場合は、その持続可能性を確認する。
- ・リサイクル原材料を使用した製品開発とリサイクルシステムの構築を積極的に行う。
- ・環境マネジメントシステムに生物多様性の保全活動を組み入れる。
- ・事業所毎に取り組める新たな生物多様性の保全活動を推進する。

##### 2 サプライチェーン全体での生物多様性への影響低減に向けた取引先様への活動

- ・グリーン調達ガイドラインで、取引先様への生物多様性保全活動の協力を依頼する。

##### 3 社会貢献活動

- ・森林保全活動を行う団体を支援する。
- ・みどりの募金活動に協力する。

#### 取り組み実績

##### 〈住江織物(株)奈良事業所〉

事業所の南を流れる岡崎川(奈良県・安堵町)周辺を桜並木の遊歩道に整備する「安堵桜友会」に参加し、桜の手入れなど協力しております。

##### 〈住江テクノ(株)滋賀工場〉

地元甲賀市の花「ささゆり」は、人と自然の共生の象徴とされていますが、近年その数が減少しています。

住江テクノ(株)滋賀工場では、ささゆりを育てて敷地内に地植えするなど増殖に取り組み、毎年美しい花を咲かせています。

##### 〈尾張整染(株)本社工場〉

木曾川などでホテル飼育に取り組む「一宮平成ホテルの会」に賛助会員として参加しております。

